

てがたんレポート Vol. 4 No. 9 (2007年9月：通巻42号)

- ・観察コースと内容：鳥の博物館→鳥博駐車場前→水の館裏の岡田水田→手賀沼遊歩道→ミニ手賀沼（ま
とめとお知らせ後解散）
- ・観察日時/天気：2007年9月11日（土）10:00～12:00/晴れ
- ・参加人数：26人（うち中学生以下5人）
- ・観察案内&記録ボランティア・スタッフ：10人（敬称略・五十音順）：青木義尚、伊東茂子、小泉伸夫、
古川克彌、弘賀さと子、松原昭福、松村定雄、水上香苗、保田行弘、湯瀬一栄
- ・鳥博職員：岡 廣志、斉藤安行、村松和行

今回のテーマ：赤とんぼと秋の虫
・案内人：小泉伸夫さん

観察記録—9月に観察した生き物リスト—

★観察した生き物

【鳥類】コサギ、チュウサギ、オオバン、キアシシギ? (声)、カワセミ、セグロセキレイ、カワ
ラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト

【両生類】トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル

【昆虫】

- ・トンボの仲間：ノシメトンボ、ナツアカネ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ウチワヤンマ、
アジイトトンボ
- ・バッタの仲間：エンマコオロギ、オカメコオロギ (声)、ツツレサセコオロギ (声)、タンボコ
オロギ (声)、アオマツムシ (声)、シバズ、マダラスズ (以上コオロギ科)、ウスイロササ
キリ、クサキリ、セスジツユムシ (以上キリギリス科)、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、
トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、イボバッタ、ツチイナゴ、コバネイナゴ、ヒシバッタ、
ハネナガヒシバッタ (以上バッタ科)
- ・チョウの仲間：アゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ (終齢幼虫も含む)、ナガサキアゲハ、ヒメ
アカタテハ (成虫、幼虫)、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、
モンキチョウ、オオスカシバ (成虫、幼虫)、モンクロシャチホコ幼虫
- ・カマキリの仲間：チョウセンカマキリ
- ・ハチの仲間：クロアナバチ
- ・セミの仲間：ツクツクボウシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ

【甲殻類】アメリカザリガニ

【植物】

- ・花：タガラシ、コスモス (園芸種)、ヒマワリ (園芸種)、チョウジタデ、コナギ、ウリクサ、
スベリヒユ、シマスズメノヒエ、アメリカタカサブロウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、
イヌビエ、オオバコ、ヤマイ、テンツキ、ヒデリコ、タマガヤツリ、ミコシガヤ、ヤハズソウ、
スカシタゴボウ、オオニシキソウ、ウリクサ、ノゲシ、ヤマハギ、ヘクソカズラ
- ・果実：クスノキ (未熟)、エノキ、ミズキ、ネズミモチ (未熟)、ノブドウ (未熟)

【生き物同士のかわり合い観察】

- ・チョウセンカマキリに捕食されるトノサマバッタ幼虫、チョウの仲間とその食草 (クスノキとア
オスジアゲハ、ヨモギとヒメアカタテハ、ヤブガラシとセスジスズメ、クチナシとオオスカシ
バ)、産卵のため麻酔したキリギリスの仲間を巢内へ運ぶクロアナバチ

9月の観察アルバム



穴を掘るクロアナバチ



猎物（セスジツクムシの雌）を穴に引きずり込むところ



穴を埋め戻しているところ

クロアナバチの産卵行動をじっくり観察しました。偽穴を含め、数個の穴が掘られていました。その中の一つが本当の巣穴で、ここに麻醉したキリギリスの仲間が運び込まれました。この後、産卵されるのでしょうか。猎物は孵化した幼虫の餌となります。巣穴を離れる時には、入口を砂で埋め戻し、穴をふさぎ隠しました。巣穴には数匹のキリギリスの仲間（メスに限られるそうです）が運び込まれますが、埋め戻した入口を掘り返すわずかなスキに、この猎物にヤドリニクバエの仲間が産卵してしまうという二次寄生も行われるそうです。



本当に利用される穴はどれ？
それは隠されているのかな？



サクラの葉を食べる
モンクロシャチホコ



アオスジアゲハの前蛹
(食草のクスノキから離れ、オオバコの葉上で蛹になりかけていました)



オオスカシバの幼虫



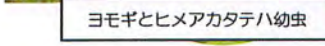
セスジスズメの若齢幼虫



猎物を待つ？アズチグモ



水の館周辺で、植物、動物
いろいろ観察しました！
とても全部は紹介しきれません・・・



ヨモギとヒメアカタテハ幼虫



トンボの5つの目を観察



トノサマバッタを食べる
チョウセンカマキリ



水路には、大きなアメリカザリガニがいました



シオカラトンボ雄の副性器を観察
(第2節の腹面の部分の拡大です)



ニホンアマガエル



ヤハズソウ（マメ科）の花が咲いていました



トウキョウダルマガエル